

知っ得情報

information

教育論文・ICT活用実践研究募集集中！

以下の要領で教育論文・ICT活用実践研究を募集しています。奮ってご応募ください。

1 募集内容

- 「教育論文」
校内研究の部 … 学校全体で取り組んできた教育研究
個人（グループ）研究の部 … 個人またはグループで取り組んできた教育研究
- 「ICT活用実践研究」
ソフトウェアや情報コンテンツ、電子機器を使い、児童生徒が生き生きと活動した授業等の実践をまとめたものやICTを効果的に使うことで校務の効率が向上した様子をまとめたもの

2 募集期間及び提出先

市町立の幼稚園及び小・中学校 … 11月1日（月）～10日（水） 各市町教育委員会へ
県立学校 … 11月15日（月）～24日（水） 教育センターへ

入賞作品については、教育実践交流会（H23.2.17）で発表していただきます。
教育センターホームページから応募票や「論文表記上の留意点」などがダウンロードできます。

子どもたちの輝く未来のために！

平成22年10月21日発行



教育センターニュース

ミネルバ

117号

佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp/>
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上
Tel 0952-62-5211(代) Fax 0952-62-6404

特集記事

- 公開講座報告
- プロジェクト研究の紹介
- 教科における言語活動とは
- 知っ得情報・長期研修生の紹介

公開講座報告

中・高英語科講座

8/9(月) 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春先生

授業は英語で、講義も英語で！

80名近くの先生方に対して、すべて英語による講義が行われました。All in Englishで行われている北海道旭川北高等学校の授業風景を映像で紹介され、高等学校の新学習指導要領の要点「授業は基本的に英語で行う」ということについて示してくださいました。受講者からは、「英語教師自身が学び続けることの大切さを再認識した。」といった感想が聞かれました。



小学校社会科Ⅱ講座・中学校社会科Ⅰ講座 8/16(月) 広島大学大学院教育学研究科 教授 小原 友行先生

社会的事象や問題を「読み解く力」を

単元や授業で「読み解く力」を育成する発問として、「どのように」（社会を知る）、「なぜ、どうして」（社会が分かる）、「どうしたらよいか」（社会に生きる）といった具体的な例を紹介してくださいました。受講者からは、「授業で活用する力をどのように身に付けさせるのかを考えるよい機会となった。」といった感想が聞かれました。



小学校国語科Ⅱ講座・中学校国語科講座 8/17(火) 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 富山 哲也先生

授業づくりは料理と同じ！教材・言語活動・指導事項の3点セットで

小学校・中学校の系統性を踏まえ、国語科教育の在り方についてご講義いただきました。言語活動、学習過程、系統性と重点化の側面から、今回の改訂について具体的に説明されました。また、3点セットをバランスよく取り入れた授業づくりの提案をしていただきました。受講者からは、「目標を明確にしてこそ評価は意味をもつということが実感できた。」などの感想が聞かれました。



教室の中の気になる子ども（発達障害と虐待）の理解講座 8/18(水) 大正大学人間学部 教授 玉井 邦夫先生

子どもの心のケア 学校にできること・できないこと

発達障害と虐待の関連、虐待についての基本的な視点、虐待はどうして起るのかについて、事例を基に分かりやすく教えていただきました。受講者からは、「虐待を受けた子どもの心情や、虐待に至ってしまう親の状況等を教えていただいた。」「生徒の顔が浮かんだ。今、接している生徒のサインを見逃さないようにかかわっていきたい。」といった感想が聞かれました。



その他にもこのような公開講座を行いました。

教師のための不登校等支援と未然防止講座 8/19(木) 東京学芸大学教職大学院 教授 小林 正幸先生

発達障害のある子どものために明日からできること講座 8/24(火) アンダンテ西荻教育研究所 代表 金子 晴恵先生

子どもの成長を共に考える保護者との関係づくり講座 8/30(月) 北九州市立大学文学部 教授 楠 凡之先生

長期研修生の紹介 研究に励んでいます！長期研修生

長期研修事業は、県内の学校教育における教科等の諸課題の解決を目指した研修制度です。通年の先生方は、佐賀県教育の喫緊の課題である「学力向上」や「特別支援教育の充実」に対応するため、日々研究に取り組んでいます。また、半年の先生方も、それぞれの研究テーマ別にグループを組み、互いに磨き合いながら、研究を進めています。平成23年2月17日（木）の教育実践交流会において、それぞれの研究成果をポスター発表形式で発表する予定です。

平成22年度 長期研修生一覧

通年（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

A	生き働く言語能力の育成を目指した国語科学習指導の在り方	江北小学校 七浦小学校 武雄中学校	今泉 博枝 鷹尾 千佳子 佐藤 彰	国語 国語 国語
	知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の工夫	久里小学校 川副中学校 山内中学校	吉田 直 徳永 敏泰 山口 高司	算数 数学 数学
	発達障害等障害のある生徒への教育的支援の在り方	大和養護学校	南 一也	特別支援教育

半年（平成22年10月1日～平成23年3月31日）

A	思考力、表現力を高める学習指導の在り方	若楠小学校 橘小学校 鳥栖中学校 大浦中学校	古川 能正 福田 修 日吉 敬子 田中 淳子	理科 社会 外国語（英語） 外国語（英語）
B	よりよく判断する力を高める指導の在り方	芦刈小学校 東脊振小学校 鏡山小学校	遠藤 悟 貞島 千晶 岩本 誠	道徳 外国語活動 特別活動
C	個や集団の成長を促す教育的支援の在り方 特別支援学校における個に応じた支援の在り方	ろう学校 大和養護学校	永原 桂子 原野 智子	教育相談 特別支援教育

プロジェクト研究の紹介

「すぐ見られます！」「すぐ使えます！」

プロジェクト研究

では、明日からの学習指導に役立つ研究を進めています。特に、小学校国語科と算数科、中学校国語科と数学科では、新学習指導要領を踏まえた授業の在り方について研究し、その成果を年間5回（6月、8月、10月、12月、3月）の計画で発信しています。

小学校国語科

◎ 授業づくりの視点が分かれる教師用手引き

授業づくりのポイント

年間を見通した意図的・計画的な指導

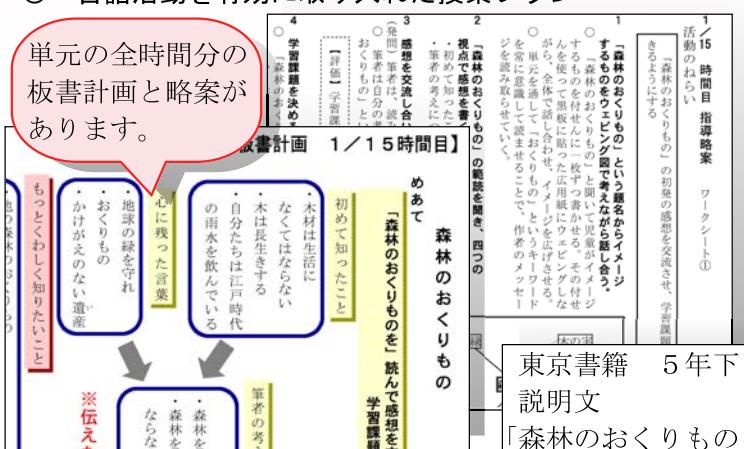
各年度で行われる3種類1事項の指導は、年間を見通し、意図的・計画的に行う必要があります。例えば、「読むこと」領域の文学的な文章の指導において、年間3教材を取り上げて指導を行うならば、3教材を通して読むことの力を付けるために、同じ指導事項を身に付けさせるのではなく、それぞれの教材に即した指導事項を重点化していくます。その際、学習者の実態に応じて、不十分なものについては、次の単元でも取り上げて指導していくような柔軟な計画が必要です。

言語活動によって身に付けさせる力の明確化

本来、言語活動は総合的なものであるため、読むだけとか書くだけといった活動は考えられません。1時間または1単元といった一連の学習活動の中では、「話す」「聞く」「書く」「読む」活動が総合的に展開されています。このことを踏まえて、言語活動の説明や報告といった様式に応じて、地域や指導事項を焦点化し、授業を通して身に付けさせたい力を明確にして取り組む必要があります。

◎ 言語活動を有効に取り入れた授業プラン

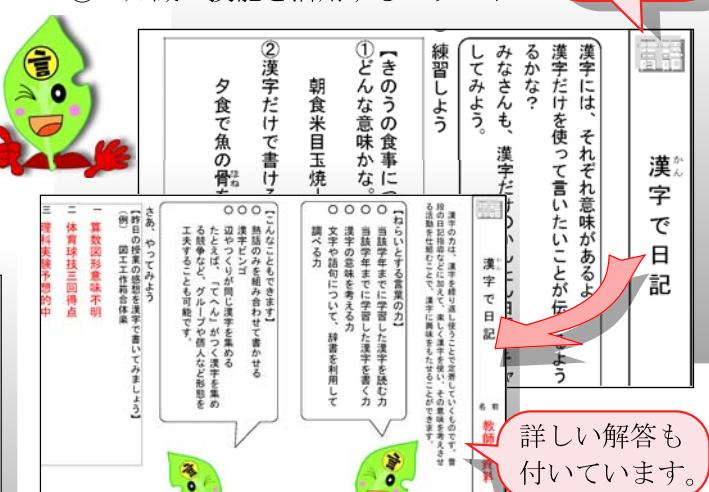
単元の全時間分の板書計画と略案があります。



◎ 授業や宿題に使える学習プリント

- ① 読む、書く、言語事項のプリント
- ② 知識・技能を活用するプリント

10分でできるプリント！

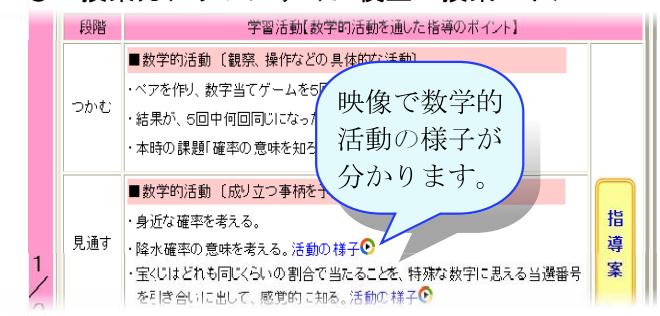


中学校国語科

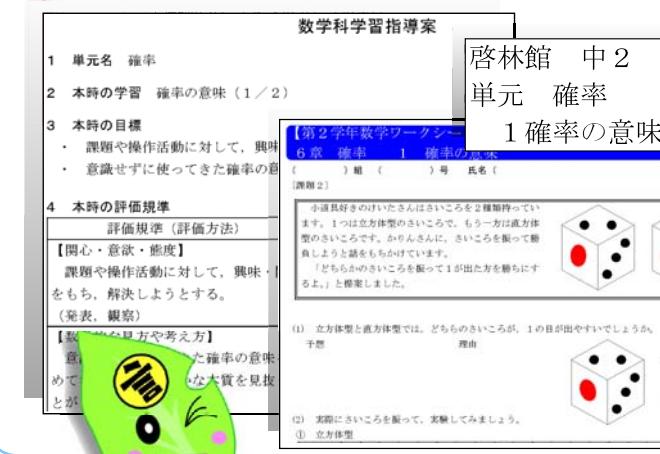
- ◎ 授業を支える学習プリントや生徒用手引き
- ◎ 手引きやワークシート、補助資料等の使い方が分かる、日々の授業に役立つ授業展開案
- ◎ 授業づくりに役立つ教師用手引き

中学校数学科

◎ 授業力アップにすぐに役立つ授業モデル

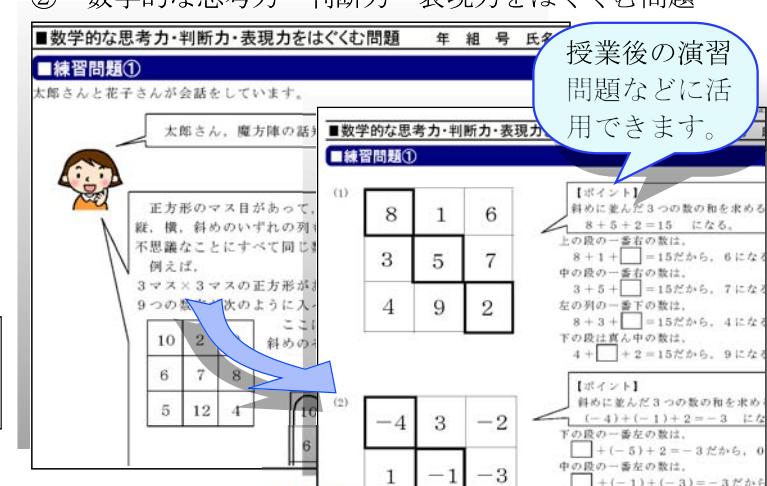


◎ すぐに使える授業展開案やワークシート



◎ 生徒向け課題として効果的に使える単元別学習プリント

- ① 知識・技能の習得を図る問題
- ② 数学的な思考力・判断力・表現力をはぐくむ問題



小学校算数科

- ◎ 算数的活動を意図的・計画的に位置付けた授業プラン(授業展開案とワークシート)
- ◎ 新学習指導要領に即した授業づくりのポイントの提案
- ◎ 知識・技能の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習プリント

指導案やワークシート、資料などは、ダウンロードして自由に使えます！

教科における言語活動とは

学習推進の手立ての一つであり、その充実を図ることが求められています。そのためには、例えば、「話し合う」という言語活動であっても、それぞれの教科の特質を踏まえたものにする必要があります。では、教科の特質を踏まえた言語活動とはどのようなものなのでしょうか。今回は小学校の音楽科や図画工作科、中学校の音楽科や美術科における言語活動について考えてみました。

中学校 音楽科

中学校音楽科における言語活動では、例えば、「自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりする活動」や「音楽のよさや美しさを言葉で説明したり、根拠をもって批評したりする活動」などが考えられます。このような言語活動を行う際に大切なことは、以下の2点です。

① 対象となる音楽の要素や構造を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する¹⁾ことを前提として言語活動を行うこと

- 1) (例) 和太鼓独特の音色とドンドコドンドコというリズムによって、
- 2) (例) 村祭りで村人が輪になって踊っている楽しい様子を思い浮かべる。

② 言語活動において、[共通事項]に示されているような用語や記号を、実感を伴って使いこなせるようにすること

言語活動の充実を通して、音楽科の目標の実現を図ること、すなわち、音楽をより豊かに表現し、より深く味わうことができる生徒を育成することこそが最も大切にしたいことです。

中学校 美術科

美術科においては、表現及び鑑賞の学習を深める手立ての一つとして言語活動が位置付けられ、次のような学習活動が考えられます。

① 作品などに対する思いや考えを説明し合う学習活動

② 作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合う学習活動

③ 主題などから自分の考えやイメージをふくらませ、発想や構想を練っていく学習活動

表現では、主題から湧いてきた自分の考え方やイメージを言葉やスケッチで整理させ、意見を出し合わせる活動があります。鑑賞では、作品から感じ取ったことや考えたことを言葉で整理させ、意見を出し合わせる活動があります。このことにより、他者の見方や感じ方を知ることができます。このことにより、自分の見方や感じ方を広げることにつながると考えられます。また、言語活動を充実させるためには、生徒が主体的に自分の思いや考えを発表できる環境をつくることが大切です。

小学校 図画工作科

図画工作科における言語活動では、感じたことや思ったことを友達と話し合せながら、表し方の変化や表現の意図、特徴などをとらえさせるような指導が大切です。言語活動の充実を図った学習活動として次のような例が考えられます。

① 自分の作品への思いや工夫点、自慢したいことなどについて作品カードに書いたり、話したりする学習活動

② 鑑賞において、よさや美しさを味わいながら、自分の思いを語る、友達とともに考える、感じたことを確かめるような学習活動

③ 制作の途中で、アドバイスをしたり、よさを伝え合ったりするような学習活動

色や形、自分のイメージなどを基に言葉で伝え合うことによって、自分の思いを確かめることや新たなものの見方や感じ方に触れることができると考えます。かかわり合いながら活動する喜びや楽しさを味わわせたいものです。

次回は、小・中社会科、技術・家庭科の予定です。

